



## 「新しい家」の子どもたち

昨年8月にオープンした通称「新しい家」の子どもたちも進級し、新しく入ったジョンが1年生に入学、パティは2年、ケヴィンとギソングは4年生になりました。

ジョンとケヴィンは中間試験で学年トップ、パティは17番から14番へ上がり、ギソングは成績こそ最下位に近いけれどスポーツで頭角を現し、上級生に混じって4年生でただ一人サッカーチームの選手に選ばれました。交通事故の後遺症で足が悪いのですがプレーする彼は浚刺としてそんなことは感じさせません。

また2年生に進級する筈だったブルは少々離れた小



ジョン 11歳

学校の特設学級に転校し、毎日マタツで通っています。これまでの学校の先生から、クラスで落ち着かず他の子どもたちに迷惑をかけるというクレームがあり、検査を受けた結果、学校を移ることになりました。本人はそこが気に入って学校の話もよくしてくれるのでほっとしています。これまで何かと馬鹿にされることの多かった彼が、今度は他の子どもたちの面倒もみることもあるようで自信が付き始めている様子です。



ジョン・ギソング 13歳



フレッドディ・パティ 13歳

受験勉強に励んでいたサムソンとラバンは無事高校に入学、寮に入りました。先日、一学期の中間休みで数日帰ってきました。次の休暇は4月のイースターホリディで、今度は一ヶ月近くいられます。



パトリック・ブル 16歳

さて、モヨの方針として基本的に



ケヴィン・ワンジョヒ 13歳



サムソン・クリア 15歳



ラバン・ムワンギ 17歳

は自分で出来ることは自分でやります。ベッドメイキング、衣類やシーツの洗濯、管理などは各自で、食事の準備、食器洗い、各寝室を含む家の掃除、外回りの掃除、畑の水やりなどの共同作業はローテーションを組みスタッフと一緒にやっています。

そんな中でもパティは掃除、洗濯が得意でとてもきちんとした性格、この子がシンナーでよれよれになっていたなんて信じられません。またケヴィンは何ととっても料理が得意！ スタッフも顔負けです。ギソングはというと掃除等は進んでやるのですが、何故だか洋服は脱いだら脱ぎっぱなし、洋服ダンスの彼の場所からは時には異臭、叱られてあわてて洗濯ということもありました。なかなかシャワー、洗濯が身に付かなかったブルも最近はずっと出来るようになり、頻繁に壊していた食器も扱い方がわかったのか上手く洗えるようになりました。11才で、皆の中では一番小さいジョンも皆にくっついて一生懸命です。

畑に鶏糞を入れ、耕して、準備をすっかり終えて待ちに待っていた雨季の到来を迎え、3月7日には皆で畑に種をまき、野菜の苗も植えました。共同で管理する畑と、各自の小さな畑があるのですが、各自の畑から獲れた作物は時には買い上げ彼たちの貯金に入れます。(ちなみに貯金というのはクリスマスなどお祝い事の時、何かの行事に参加した時にあげた小遣い等の残りを貯めたものです。私が預かり記帳し、各自のサインで出し入れ出来ます。)

2月18日に続き、3月18日にもどろぼうに入られるという事件があり、自転車、煮炊き用のストーブなどを盗まれたものの、幸い誰も怪我もなくほっとしましたが、比較的安全だと思っていたこの地域でのたて続けの事件に緊張しています。

…と色々ありますが、今のところ大きい病気も怪我もなく皆元気に毎日を過ごせています。

松下

## ティカの方々と共に

前号に続き今回はお二人の方々をご紹介します。

### シュディールさんご夫婦

「モヨ通信7号」で紹介したシュディールさんご夫婦が学費支援を始めてくださいました。以前から「恵まれない子どもたちに何かしたいと思っていたが、今まで信用出来るところが見つからなかった。あなたの動きを折に触れ見ているが信用出来ると思うのでお手伝いしたい。来年から学費支援を始めても良いですよ。」という申し出を受けていました。

新学期が始まる前、多くの申請者の中から選ばれたのはジャスティン・ニャコヌ君14才。シングルマザーのお母さんは貧しく、親戚とその友人に支援を受けながら小学校を卒業しました。優秀な成績で国家試験をパスしたものの、高額なセカンダリーの学費までは出す余裕がなく、モヨに相談に来た子です。

「飛行機整備の専門家になりたい」というジャスティン君と一緒にシュディールさんご夫婦にご挨拶にうかがいました。「しっかり勉強して立派な人になって、今度は君が恵まれない子どもたちを助けるんだよ」というシュディールさんに、しっかり「はい！」と答えるジャスティン君。学期ごとの報告を約束して彼は学校に向かいました。地元ティカでの学費支援者誕生は本当に大きな喜びであり、活動の励みです。

### フローラ・デメロさん

2003年末、あるNGOからストリートチルドレンのリハビリプロジェクトをモヨが引き継いで以来、毎週金曜日に食パンを届けてくださっているのがデメロさんです。最初は



シュディールさんご夫妻とジャスティン君

デメロさん

教会のシスターを通じて、最近はお自身が指定の場所へ預けてくださっています。

それだけではなく、クリスマスには「子どもたちに何か買ってやってください」とご寄付くださったり、パーティー等の時には献立の相談にのって頂いたり、食器をお借りしたりと色々お世話になっています。以下はデメロさんのご寄稿です。

I live in Thika town where there are many poor children who go hungry as they have nothing to eat .

When I found out Terumi runs MOYO CHILDREN CENTRE it made me very happy as she does it well and she does her best to help these poor children and as I love children very much and would not like to see them go hungry .

I give them a donation of bread every week and will always do my best to help this Centre .

May God bless and keep Terumi to help the poor .

Flora D'Mello

私が住んでいるティカの町には食べる物さえない貧しい子どもたちがたくさんいます。この子どもたちを助けるのに全力を尽くしているMCC主宰の照美さんを知った時はとても嬉しく思いました。子どもが大好きな私にとってひもじい思いをしている子どもたちを見ることはとても辛いことです。私は毎週パンを寄付し、またこのセンターを支援することに全力を尽くすつもりです。皆様のご加護と照美さんの援助がいつまでも続くことを祈ります。

フローラ・デメロ

### 日本から16名のお客様来訪！

子どもたちの新学期が始まって間もない1月13日、日本から16名の支援者の方々がティカのスタジアムに来てくださいました。学費支援を続けてくれている姉夫婦と、この旅を企画してくれた従兄一家を含む一行でした。徳島、東京、大阪から、年令も6才から70才を超えられた方までと多彩なメンバーでした。皆様から、来られなかった方々からのご厚志に加え、お土産にサッカーボールを始めとして、たくさんのお菓子類、紙風船、折り紙、独楽などをいただき、取り出すたびに子どもたちから歓声が上がりました。

一方迎える私たちは子どもたちを始めとし、ご招待した地元ティカの支援者の方々、教育長を始めとする

行政府の方々、婦人グループ、ハンディキャップグループ、スタッフと総勢60名を超えました。婦人グループとスタッフによる本当の手作りのもてなしでしたが、皆さんに喜んで頂きました。子どもたちと一緒に踊り、独楽や縄跳びを教えてもらったりして3時間近くがあつと言う間に過ぎてしまいました。本当にとっても楽しいひと時でした。

「頑張ってください！これからも支援しますよ」という有難い言葉に今も励まされています。遠い所を来ていただいて本当にありがとうございました。

別れる時、6才の奈美ちゃんが「また来るからね！」と手を振ってくれました。皆さんの又のお越しを子どもたち共々お待ちしております。

松下

## ストリートの子どもたちへの支援活動

## 新しく来始めた子どもたち

去る2月6日、スタッフ、ボランティア、私の四人でストリートの子どもたちが集まっていそうな所を、道々出会う子どもたちに声をかけながら視察しました。現在まで関わってきた子どもたちの多くが学校に復帰したり、「新しい家」に入所したり、国立の少年院に入所したりで、残りの多くは15才を過ぎる若者たちになりました。そこでその若者たちは政府と共同のプロジェクトである「成人識字教育」にまわってもらい、15才以下の小さい子どもたちをリクルート(?)することにしました。

ここティカでは最近急速にキリスト教系、ヨーロッパ系の子どもに関わるNGOが増えたこともあって、路上に残された子どもは少ないのではと思っていたのですが、実

際に歩いてみると思ったより多くの小さい子どもたちが路上で生活していました。その多くは、一度は何らかの形でここのNGOに関わったことがあるものどうしてもシンナーが止められない、そこで盗みを働いた、勉強が嫌いなどの理由ではみ出てしまった子どもたちでした。中でもシンナーの問題が一番大きいようです。

何日か街に出て声をかけ続けるうちに子どもたちが少しずつ集まって来るようになりました。車で移動する時にも声をかけ、車に乗せてスタジアムに連れてきたのですが、中には車で送迎してくれると勘違いした子どももいて苦笑したものです。

現在集まって来るのは6才~14才の子が14、5名、ほとんどがシンナーを吸って改めてシンナーとの戦いが始まっています。

松下

## MOYOチームのフェアプレーに拍手!

12月17日土曜日、THIKAからMATATUで1時間近くかけてMOYOのサッカーチームがナイロビ日本人学校まで来てくれました。当初は、日本人学校の小学校高学年以上の子どもたちと対戦する予定でしたが、長期休業中で一時帰国していた子どもたちが多く、日本人会子どもサッカー教室のコーチ(往年の名選手)が5~6名入って試合を行いました。試合はMOYOチームが先制したものの、負けん気に火を付けた「往年」たちが「昔の感覚」を取り戻して2得点。結局、日本人学校チームが2対1で勝利しました。

MOYOチームの試合は、以前にも拝見させていただきましたが、昨年8月頃までは、「勝ちたい一心」からすぐに「ムキ」になっていたメンバーが、10月の試合で

は「フェアプレー」に徹して勝利しました。今回の試合ではさらに、年下の子どもや年配の大人たちを「気遣う」姿が多く見られ、サッカー経験のない私



でも、安心して審判を務めることができました。

この試合の他、比較的小さい子ども同士での試合も行われ、大人にとっても子どもにとっても、楽しい半日になりました。2006年を迎えて、日本からナイロビに戻ってきた児童生徒たちから「今度はいつ試合をするんですか?」という声も上がっており、第2回、第3回と交流試合が行われることを、日本人学校として心待ちにしているところです。

日本人学校体育科教諭 飯田雄士

## モヨでボランティアをして

私は約8ヶ月間モヨで、週に1回ボランティアをさせてもらいました。それは、私にとってとても充実した素敵に時間でした。ケニアの人々と触れ合い、ケニアについて知りたい。何か自分の時間を役立てたいと思っていました。そんな時に松下さんと出会いました。松下さん



の人に対しての心の広さに、モヨに通う子供たちのキラキラした目に惹かれて、ボランティアをさせてもらいました。松下さんと、共にモヨで過ごす時間はケニアの現実を見せてくれる時間でした。一人一人は本当に人間って同じだと思

う反面、モラルや文化の違いには本当に驚く事が多く、時折松下さんは嫌になることはないのだろうか、考えることもありました。また、子供たちはかわいい。しかし、ストリートでたくましく生き抜く彼らは、したたかな面も持ち、また、次々に起こす騒動に、私の知り合いのケニア人でさえ彼らを世話することは本当に大変だと、漏らしていたほどです。でも、そんな中、様々な問題に、常にポジティブにパワフルに関わっていく松下さんの姿勢は、本当に素晴らしいと思いました。そして、その大変さの中で人生を楽しんでおられるような様子には私はとても感動しました。最後に松下さんに、モヨで出会った素敵な笑顔の子供たちやグループの人達に、とても、感謝しています。素敵な時間をありがとうございました。

今栄志保里

# 今年も新たに6人の支援を決定

新しく支援を始めた子どもたち

上から名前・年齢・学校・学年

					
Miano Ali Kariuki ミアノ・アリ・カリウキ (16才) MUHOHO HIGH SCHOOL 1年生	Jutine Nyakonu Maranga ジャスティン・ニャコヌ・マランガ (14才) KIAMBU HIGH SCHOOL 1年生	Onesmus Njuguna Kimemia オネスマス・ジュグナ・キメミア (16才) CHANIA BOYS HIGH SCHOOL 1年生	Ali Muhamed アリ・ムハメッド (16才) NYAGA YOUTH POLYTECHNIC 1年生	Samson Kuria Njeri サムソン・クリア・ジェリ (15才) THIKA HIGH SCHOOL 1年生	Laban Mwangi Wangari ラバン・ムワンギ・ワンガリ (17才) GIACHUKI SECONDARY SCHOOL 1年生

ケニアでは毎年12月末に小学校8年生(最終学年)が受ける国家試験の成績発表があり、この結果でどのハイスクール(中・高校)に入れるかが決まります。その発表直後から2月末辺りまで多くの生徒たちが学費支援を求めてモヨのオフィスへやってきます。多い時には午前中だけでも10人を超える子どもたちや保護者、出身小学校の先生たちが訪れます。小学校の授業料は無料化されたものの

●ハイスクールの授業料はとても高いこと、貧しい家庭や孤  
●児の多いことに加えて、モヨの存在が地域の人々や学校  
●に少しずつ知られてきたこともあるようで、今年はこれまで  
●より多く志願者が来訪しました。こうして今年も6人を新た  
●に支援することになりました。現在学費支援者数・高校生  
●26名・小学生(身体障害者学校寮費)4名・計30名

## ケニア・ア・ラ・カルト⑧

### 野生動物

野生動物を見に、多くの観光客がケニアを訪れます。しかし、ケニアに住んでいる人々の多くは、象もライオンもキリンも実物を見たことがありません。生活するのが精一杯の人々に国立公園や保護区に遊びに行く余裕などないのです。せいぜいナイロビ国立公園に隣接している動物孤児院で、日本の動物園のように檻に入れられた動物をみたことがある程度です。地方に住んでいる人達は、その地方に生息する野生動物と共存しているわけですが、彼らにとっての野生動物は、生活を脅かす存在でしかなく、畑を荒らされ、時には死の恐怖にもさらされます。住民が野生象に踏みつぶされたなどの事件が、時たま新聞に掲載されます。ため池を野生動物と共有している為に、伝染病にかかったりもします。観光客にとっての野生動物と地域住民にとっての野生動物は全く違う存在ですね。(高橋)

### モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月 ■ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。  
1999年9月 ■ケニア政府より国際 NGO として「モヨ・ホーム」正式に認可・登録される。  
2000年10月 ■ティカにて、本格的に活動開始。  
2001年5月 ■「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。  
2004年4月 ■「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

### 「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集

お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸いです。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000円	20,000円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000円	3,000円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

経過報告 (2006年3月31日現在)

正会員: 日本 43名(3名増)・ケニア 4名(3名増) 計 47名

賛助会員: 日本 35名(6名増)ケニア 1名 計 36名

特別会員: 日本 41名 ケニア 2名(1名増)・法人 3社  
計 43名・法人 3社

総会員数: 個人 126名・法人 3社

■「支える会」よりお願い

4月から新年度です。2006年の会費納入をどうかよろしくお願いたします。

■「支える会」会費 / 寄付受付先

口座名: モヨ・チルドレン・センターを支える会

代表者: 高塚政生 ※郵便振替口座番号: 01660-1-73996

■お知らせ

ホーム・ページただいま作成中!

<http://moyo.jp/>

### 編集後記

◎お待たせしました。今号は発行が少々遅くなってしまいましたが、次号は早く準備にかかります。皆様のご意見、ご感想等お寄せください。(テル)

◎ナイロビにも桜の木があるそうです。日本のように桜の木の下でお花見とまではいかないようですが。(優香)

◎「新しい家」のレポート、楽しみに読んでいます。(英)

モヨ・チルドレン・センター ●ケニア政府 NGO 局登録番号: OP.218/051/97223/1006

P.O.BOX 2712 THIKA KENYA TEL/FAX: 254(ケニアの国際番号)-067-22329 E-MAIL: moyo@africaonline.co.ke

モヨ・チルドレン・センターを支える会 ●〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林 1785-1 高塚政生方

TEL/FAX: 0896-74-7920 携帯電話: 090-11715632 E-MAIL: tmasao@d1.dion.ne.jp

■これまでのモヨ・チルドレン・センター日本支部は「モヨ・チルドレン・センターを支える会神奈川支部」になりました。

連絡先はこれまで通り 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部 1905 青木康子: TEL/FAX: 044-433-3447